埼玉新聞　経済欄

中小企業診断士による
経営Q&A

ベクトルと目線合わせ

Q 外部環境の変化に打ち勝つために、取り組むべきことはありますか？

A コロナ禍で、先行きに不安を感じている方も多いのではないでしょうか。そのような中、自社を見つめ直し、足下を固めるために取り組んでおくべきことを2点、さらに伴走型支援についてご紹介します。

①ベクトル合わせ

貴社の皆さんは、同じ方向を向いて仕事に取り組んでいますか？誰のために、何のために、日々の業務に取り組んでいるのでしょうか。各部や各課、個々人ではいかがでしょうか。各々が異なった方向を向いている組織とそうでない組織とでは、どちらが強い組織でしょうか。思い当たる状況がおありでしたら、ベクトル合わせに取り組んでみてはいかがでしょうか。

②目線合わせ

意思疎通に隔たりがあると感じることはありませんか？これは、目線が合っていないことが原因かもしれません。目線を合わせるためには、相手の立場になって考えることが重要になります。また、ベクトルを合わせた上で、一定の目標や水準を、目線の先に設定することが必要になります。戦略目標等がこれに当たります。なお、相手を金融機関や得意先としてみると、目線合わせは、社内のみならず社外に対しても大事なことであると、ご理解いただけると思います。

ところで、経営革新計画等の策定に取り組まれた経験のある事業者様もおありかと思います。専門的な分析や戦略策定、数値計画の立案は、ベクトルと目線が合った上で策定したものとなっているでしょうか。ご確認なさることをおすすめします。

③伴走型支援

貴社が外部環境の変化に打ち勝ち、未来に向けて変革を図り戦っていくためには、経営の構造を転換していくことが不可欠だと思います。大量生産・大量消費を念頭に置いた構造から、商品やサービスの差別化を重視し、付加価値を上げていくことを念頭に置いた構造への転換です。この作業を事業者様のみで行うことは、容易ではないと考えられます。なぜならば、事業者様自らが、目先の課題のみならず本質的な経営課題に気づき、課題を設定するといった、能動的な対応が必要になるからです。

ここで登場するのが、伴走型支援です。伴走型支援とは、事業者様の課題設定から課題解決までを、中小企業診断士等の支援者が寄り添いながら実施していく支援の手法です。なお、構造転換を上手に行うためには、ベクトル合わせと目線合わせが重要であることは言うまでもないと思います。

外部環境の変化に打ち勝つための方策にお悩みの際は、中小企業診断士にご相談ください。

（中小企業診断士・行政書士　鈴木　靖人）

◇

連絡先：一般社団法人埼玉県中小企業診断協会（☎048・762・3350）